

2017年1月刊行

中央公論美術出版

スペイン初期中世建築史論

伊藤喜彦（東海大学工学部准教授）著

本体価格 16,000 円 + 税

A5 判上製函入 本文 680 頁 口絵 8 頁

本書は、イベリア半島初期中世、とりわけ 10 世紀のプレロマネスク建築を、社会的文脈と建築的造形とから論じた本格的な研究書である。イスラーム文化とキリスト教文化、中世社会が発達するさなかでの古代への憧憬など、イベリア半島初期中世は、異なる文化が接触する辺境であり、社会のパラダイムが大きく変化する過渡期であった。そんななか、隆盛を極めるコルドバ後ウマイヤ朝に対峙する北部キリスト教勢力下には、無数の修道院が建設された。イスラーム教徒とキリスト教徒、あるいは同じ宗教を信奉するもの同士が争い、また共存するなか、建築はどのような特徴を備え、その造形にはどんな意味があったのか。本書は、文献資料と現存する遺構の造形・工法の分析から、知られざる初期中世の建築と社会を描き出すものである。

9～10世紀に造られた初期中世スペイン建築を主題に、建築文化が接触・伝播・受容によってどのように変質し、特殊化するかという問題を考える。

目次

刊行に寄せて (イシドロ・G・バンゴ・トルビッソ) 序	第2章 サンティアゴ・デ・ペニャルバの
第一部 スペイン初期中世建築研究史	第3章 サン・ミゲル・デ・エスカラーダの円柱使用法
はじめに	第4章 馬蹄形アーチの構造と意匠
第1章 国民的建築をもとめて	第5章 テクストから読み解くイベリア半島 初期中世建築の様相
第2章 西ゴート、アストゥリアス、モサラベ	まとめ スペイン・イスラーム建築の発達と キリスト教建築の保守性
第3章 「モサラベ教会堂」と10世紀イベリア半島	第四部 10世紀レオン王国の建築
第4章 近年の成果と問題点	はじめに
第二部 レオン王国とモサラベ移民	第1章 サンティアゴ・デ・ペニャルバ
はじめに	第2章 サン・ミゲル・デ・エスカラーダ
第1章 イベリア半島の初期中世	第3章 サン・セブリアン・デ・マソーテ
第2章 ドゥエロ川北岸の無人化と再入植活動	第4章 サン・ミゲル・デ・セラノーバ
第3章 モサラベとレオン王国に見られる アラビア語の残滓	結 論
第4章 10世紀レオン王国 建築の背景としての社会	巻末資料
第三部 スペイン初期中世建築の特質	地図・表／補遺：各種文字史料原文／参考文献 あとがき
はじめに	
第1章 スペイン初期中世建築の特徴と諸問題	

【著者略歴】

伊藤喜彦 (いとう・よしひこ)

1978年生。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了。博士(工学)。
2002-05年マドリッド留学。日本学術振興会特別研究員(法政大学)、東京理
科大学工学部第一部建築学科PD研究員を経て、2017年現在、東海大学工学部
建築学科准教授。
専門はスペイン建築史

《関連書籍》

石による形と建設 中世石切術から19世紀截石術まで

エンリケ・ラバサ・ディアス 著

入江由香 訳

本体価格 28,000円＋税

B5判上製函入 本文 328頁 挿図 296点 ISBN 978-4-8055-0602-8

古代から近代における石造建築構造の特色を綴った石の加工の通史である。豊富な実地調査と理論知識の素養を基本に石材を加工する技術である石切術の歴史的変遷をもとに解明する。

お取り扱い

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798